

特集② 島前高校、‘オンリーワン’へ

島前3島の生徒が通う、隠岐島前高校。
「未来へつながる教育」をめざして、
いま大きな一歩を踏み出そうとしています。



畑中晨吾くん(写真右端)からのコメント

(※高校パンフレットより抜粋、編集)

「僕は大阪の中高一貫校に通っていましたが、都会の大規模進学校の受験教育の中で息苦しい日々を送っていました。そこで、大自然に恵まれ、人情や志に溢れる島の人たちや情熱的な先生がいる島前高校へ入学することにしました。今では明るく楽しい同級生と共に、充実した高校生活を送っています。夢は、生徒会長になって全国からも人が来る学園祭を行うこと。そして卒業後は、大学で政治経済を学び、将来は地域を元気にする仕事をしたいです。もし『高校時代に何かをやりたい』という思いがあるのなら、一人ひとりが輝けるこの島前高校をオススメしますし、僕もその思いを応援します！」

■島前高は今年8月、全国の高校が参加した観光プランコンテスト「観光甲子園」でグランプリを獲得しました。日本一に輝いたプランは、島民との出逢いと交流を楽しみ『人とのつながり』をお土産にもつて帰ってもらおう企画。これは都市部の子供をターゲットにしており、少子化の影響による高校存続問題を解決し若者のU・Iターンを増やすことを目指したもので、生徒らの郷土愛と独創性が審査員の心を打ちました。

■現在生徒たちは、来年3月にこのツアーを実現するために活動を続けています。この取組みを通じて彼らが学んでいるのは、“島の宝”を探し出して多くの人に伝える力。そして自分らで地域の課題を解決し、新たな価値を創っていく力です。

島前高では来春、丁寧な徹底指導で国公立大学進学を目指す「特別進学コース」と共に、このような総合力を養う「地域創造コース」を新設します。

■地域創造コースでは、学力習得に加えて、地場産業でのインターンや課題解決型の学習などを通じて創造力やコミュニケーションスキルなどの実践力を育みます。

将来各地域のまちづくりを担う人材を育てるため、観光甲子園のような観光プランの提案とツアーの実践を行う授業や、地球環境問題を学び地域での環境活動を行う「環境学」といった科目もあります。

■石田和也校長は、「現状の教員数と施設で出来る限り独自色のあるカリキュラムを練った。実社会で役立つ力を身につけさせたい」と語ります。また、高校魅力化プロデューサーとして活動する岩本悠さんは、「これが成功すれば、島前ならではの環境を活かして地域のリーダーを育てる、日本でオンリーワンの高校になる」と大きく期待しています。

この島だからこそできる人づくり。まさに「ハンディキャップをアドバンテージに！」(山内道雄・島前高校魅力化の会会長)という言葉どおりの挑戦です。

■『島前高校の魅力化』は、町にとっても大きな課題であり、最重要施策の一つと位置づけられています。

今年9月に島根県が県外からの入学生を積極的に受け入れるためのPRを始めたのに合わせて、海士町でもサポートを強化。本土から島前高への入学生を増やすため、平成22年度から寮費や里帰り交通費を補助する新制度を整備中です。

「学生寮は、一人ひとつの自習室もあり冷暖房完備の快適な環境。栄養満点の手作りの食事がつくのも大きな魅力です。島外からでも安心して通ってもらえるはず」（岩本さん）。

充実した寮生活は、生徒の成長にも大きく貢献しそうです。

島前高校の魅力をもっと知りたい、新カリキュラムや制度についてもっと詳しく知りたいという方は、高校のホームページをご覧ください。左記までご連絡下さい。

■島前高校ホームページ

<http://dozen.ed.jp/>

■お問い合わせ

隠岐島前高等学校魅力化推進室

(担当・岩本、浜板)

【TEL】08514・2・0731

島前高校だより

特集にあたり、通常とは違う形で「島前高校だより」をお伝えします。

今回ご紹介するのは、今年の夏に行われたロシアでの国際交流プログラムと、10月の韓国研修旅行。

海外交流が活発な点も、島前高校の特徴であり大きな魅力の一つです。異なる考え方や異文化に触れる様々なカリキュラムを通じて、生徒たちは多様なものの見方・考え方を養います。島にいても、視野を広げ、グローバルな感覚を身につけることは出来るのです。



島前高からの参加者の一人、佐渡君（右）

■ロシア訪問

今年7月末〜8月中旬に掛けて、島前高校生3名が、全ロシア子供センター「オケアン」（ロシア教育・科学省所管、ウラジオストク市）主催の国際交流プログラムに参加しました。現地では、各国からの参加者による自国の文化の紹介や、ロシアの伝統のおもちゃ作り、服飾デザインなど、貴重な体験をしました。

【生徒の感想】

大脇政人くん

「島」というある意味本土から離れた場所では、考え方が固執してしまします。そのために、将来への選択肢が他の高校生に比べて少ないことがわかりました。

例えば「検事になりたい」という高校生がいました。その時は驚きました。なぜか。それは「島」では裁判などめったに起きないからです。「島」では体験できないことをたくさん経験できました。ロシアの人たちの考え方、各都道府県からきた高校生の考え方、そういったものを知り、自分の考えに照らし合わせてみて、これからの自分の生き方を決めていきたいと思います。

■韓国研修旅行

10月6日（火）〜9日（金）の日程で一年生が韓国研修旅行に出かけました。これは、韓国や日本の歴史を学習することで両国の歩みを理解するとともに、平和を尊ぶ心と態度を養うこと、韓国の文化や社会的背景を学び国際感覚を身につけることを目的としたカリキュラムです。生徒たちはそれぞれに、感動と学びを持ち帰りました。

●主な旅程

- ・天安市の独立記念館見学
- ・シンヒョン高等学校との交流
- ・南大門市場 ・景福宮見学
- ・ロッテワールド見学

【生徒の感想】

大野紗季さん

シンヒョン高校を出る時、みんなが見送りに出てくれました。私は別れるのが寂しくてバスに乗るのがとても嫌でした。一生会えないかもしれないと思うとても辛かったです。同時に、あんなに温かく迎えてくれたみんなにありがとうという気持ちでいっぱいになりました。